労働法から見た現代学生像

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 前田, 達男, Maeda , Tatsuo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00065997

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

1998 Fiscal Year Final Research Report Summary

労働法から見た現代学生像

Research Project

Project/Area Number

09620047

Research Category

Grant-in-Aid for Scientific Research (C)

Allocation Type

Single-year Grants

Section

一般

Research Field

Social law

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

前田 達男 金沢大学, 法学部, 教授 (80031847)

Project Period (FY)

1997 – 1998

Keywords

学生像 / アルバイト / 大卒労働市場 / 企業社会 / 高等教育システムの発展段階 / 労働法教育

Research Abstract

本研究において、学生は労働法との関係では、2つの局面で把握される。第1は、在学中の労働、非正規雇用のアルバイトであり、第2は、正規雇用への離陸、就職である。
第1の局面に関しては、求人情報入手手段・経路、(労働)契約締結過程、就業職種・形態、就業時間数・時間帯、賃金形態と計算・支払方法、トラブル事例、離職、労働法リテラシーなど、アルバイトを介しての労働世界、社会への参加について、学生に対して体験レポートの提出を求めるなど、その実態把握に努めた。レポートの幾つかは参考資料として収録するとともに、学生・高校生に対する特別講義の教材としても活用した。
第2の局面に関しては、実際に行われた就職活動の体験報告などを収集する一方、中等教育終了労働市場などとの比較研究も行い、大卒労働市場についてその問題点を洗い出した。つまり、高等教育のマス、ユニバーサル化は、産業構造・就業構造の変化ともあいまって、学生を「チープ・レーバー」あるいは基幹的な労働力として労働市場に登場させている。しかし、法制度の描く学生像は「エリート」段階にとどまっており、法と現実との間にはおおきな乖離がある、ということである。

本研究の今後の展開としては、学生に対する大学側の対応(生活指導、就職相談、教養教育の改革など)と合わせて、学生に対する労働法の助力、労働市場の公的規制のあり方、その制度設計について試論する。

URL: https://kaken.nii.ac.jp/report/KAKENHI-PROJECT-09620047/096200471998kenkyu_seika_hokoku_

Published: 2001-10-22 Modified: 2016-04-21